

分析・測定機器 中国・インドへ

日本の中堅・中小企業が世界の研究施設に先端技術を売り込む



ユニソク

半導体や薄膜材料の開発に使う特殊な顕微鏡の受注が中国や欧州から相次ぐ



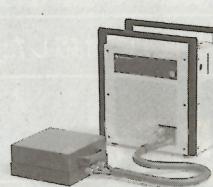
ジェイテックコーポレーション

大型実験施設向けの特殊鏡を輸出。台湾や欧州、印度に加え中国向けが急増



キナスデザイン

温度調節機を台湾の検査受託会社から海外初受注



日本の中小企業が世界の研究施設に分析や測定機器の販売を強めている。先進国に加え、中国や印度など新興国への輸出も増やしている。各国・地域が経済成長を追い風に研究開発投資を増やしていることが背景にある。大企業のような組織的な販売力はないが、研究者人脈や外国人留学生との接点を活用して着実に実績を上げている。

「科学重視」追い風

ジェイテック 研究者人脈生かす キナス トップ営業が結実

ジェイテック 医療・バイオ機器メーカーのジェイテックコーポレーション(大阪府茨木市、津村尚史社長)は新素材開発や創薬で物質の分析に使うエックス線を集光する鏡を製造販売

する。2005年度は1500万円程度だった輸出が、15年度は50倍の約7億円に増えた。物質の微細な構造を観察するには鏡の高い加工精度が必要だ。同社の鏡

の表面の加工精度は1/ 2^{24} (λ は10億分の1)

以下の1/1000倍。理化学研究所や大阪大学の研究成果を取り入れた。津村

社長の学生時代の指導教員との関係や、阪大と理研が進めた反射鏡の開発計画への参加を通じ、研究者と関係を築いた。

台湾や欧州、印度に

加え中国向け輸出が急増している。「新興国が先端研究を重視し科学インフラの投資を増やした」(津村社長)ためだ。25

年には全世界で1兆2

億円の売上高を目指す。

分析機器メーカーのユニソク(大阪府枚方市、駿河正次社長)は、納入にいた中国人留学生が帰国後に同社の機器を使い続けたことが、輸出を増やす一因になった。半導

た。小惑星探査機はやぶさが持ち帰った小惑星の微粒子も解析した。温度調節機のキナスデザイン(東京都東大和市、橋純一社長)は研究者人脈や接点にこそ恵まれなかつたが、海外顧客の声を丹念に拾うことで突破口を見いだした。5月、台湾の検査受託会社から海外初の受注を得られ、中国や欧州から注文が相次ぐ。

留学生はユニソクの装置で超電導や半導体分野で成果を出した。これが口コミで広まり、他の研究者が使い始め、毎年複数の成果が一流の科学誌に掲載されるようになつた。中小が海外事務所を構えるのは難しい。現地代理店を通じて顧客の声を聞き、社長自ら営業に成約に結びつけた。

量産ラインに組み込む

機器はコスト競争力が求められるが、研究施設が使う分析機器は一品もの。きめ細かな対応が求められる。日本政策金融公庫の海上泰生主席研究員は「高い技術が求めら

れるニッチトップの測定機器こそ中小の得意分野」と海外への飛躍を目指すメーカーへ期待する。